



公開講座 京大知の森 (令和6年度春季)

【主催】 京都大学 【後援】 京都府、京都市



参加費
無料

定員先着
270名

2024年

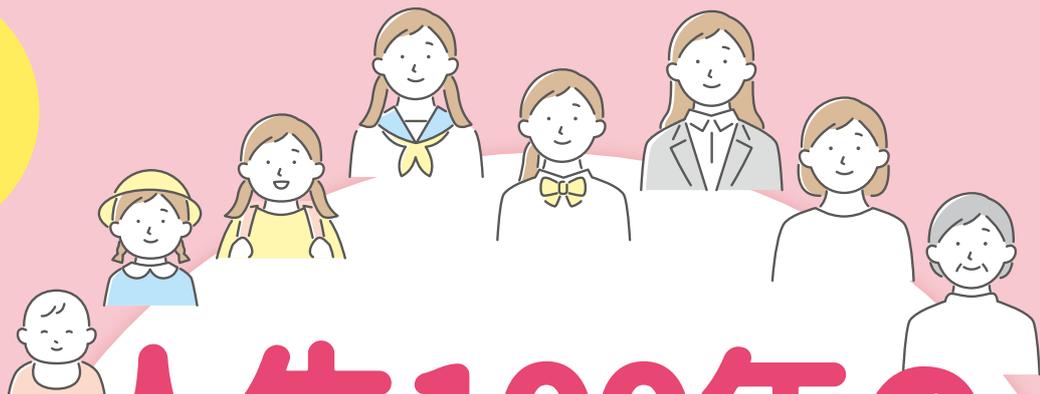
4月27日(土)

14:00~17:00

(13:30開場)

京都大学国際科学
イノベーション棟5階
シンポジウムホール

(京都府京都市左京区吉田本町)



人生100年の 道のり

—「老い」の見方を変える—



月浦 崇
(つきうら たかし)
人間・環境学研究科 教授

14:05 - 14:55

生涯学：加齢観の刷新をめざす学際的研究

「エイジング」という言葉には、一般的にネガティブな印象を抱く方が多いと思います。年齢とともに心身の機能低下は避けて通ることはできませんが、年齢を重ねることでポジティブに変化する(成熟する)こともあるはず。本講演では、成熟した「老い」へ向けて私たちが進めている「生涯学」の研究の一端を紹介したいと思います。



近藤 祥司
(こんどう ひろし)
医学研究科 准教授
高齢者医療ユニット長

15:05 - 15:55

老化と対話する医療から新しい健康概念へ ～寿命の進化論的考察より

「老化先進国」日本では、「高齢者の多様性」が観察されます。「寿命の進化論的考察」より、「ヒト50歳以降はプログラムされていない」と仮説され、「老化は進化とのトレードオフ」の結果とも言えます。老化恒常性・レジリエンスの存在を我々は意識せざるをえず、新健康概念の創出が期待されます。

パネルディスカッション

16:05 - 16:55

月浦教授、
近藤准教授、



東南アジア地域研究研究所
准教授

坂本 龍太
(さかもと りょうた)

「老い」への不安は「衰え」への意識を生み、時に人間に苦しみをもたらします。特に長生きできるようになった現代では、多くの方が自分や誰かの「老い」に発する問題に直面するかもしれません。しかし、人生100年の今、「老い」を単なる加齢や衰退として捉えることは現状に合わない面もあり、少し切り口を変えて「老い」を見直す必要がありそうです。老化のプロセスや人間が生涯で経験する変容の意味について、脳内メカニズムの変化や人類の進化、文化や環境の差異など様々な観点から考えます。

詳細・申込はこちら

京都大学ホームページよりお申込みください



京大知の森

検索

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/social/open-course/kyodai-chinomori>
オンデマンド視聴は申込不要

申込受付期間：開催前日まで (定員になり次第締め切り)

全ての講義日程終了後、オンデマンド配信を行います。※当日ライブ配信は行いません。

問い合わせ 京都大学渉外部渉外課 TEL.075-753-2606、event@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※お預かりした個人情報は、本イベントの開催にかかる企画以外の目的では一切使用しません。
※開始後30分以上経過してからのご入場はお断りする場合がございます。